

令和3年度 専門学校静岡医療秘書学院シラバス

課程	専門課程	学科	医療秘書科	昼夜の別	昼
専門科目	医療・保健・福祉基礎教科		医療秘書専門教科		
科目名	健康とは、疾病とは		履修区分	2年次・通年	
担当者	講師：現役ドクター	実務経験のある教員による授業		有・無	
授業時間数	時間数／単位数／授業回数 30時間／2単位／15回	授業形態		講義・演習	
実務経験のある教員による授業内容	独協医科大学卒業後、大学病院勤務医を経て開業。本学院へは平成28年より講師として。岡山大学医学部卒業後、市立病院や総合病院勤務医を経て開業。平成30年より講師として各分野2名で授業を行っている。実際の医療現場での経験・体験を踏まえ、現在の医療に特化した授業展開を実施している。				
科目の目的	「健康」とは何か、そして「健康である」とはどのような状態のことをいうか。私たちは、通常、医療機関(病院、診療所)に行き、具合の悪いところがあれば症状を伝え診察してもらおう。講義では、「健康」という考え方は、感染症を中心とする疾病への対策、病原体や環境などの外因、自信に備わる内因(生活習慣、体力、免疫)の双方が関わって「疾病」という健康障害が起こるなどについて学ぶ。また、学校保健や産業保健、障害者の医療と保健についても学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とは何か。環境と疾病や感染症の予防について理解する。 2. 病気の歴史や文化と病気、地域保健について理解する。 3. メンタルヘルス(医療と保健)と福祉やリハビリテーションについて理解する。 				
授業回数	授業内容			授業方法	備考
1	健康とは、疾病とは			講義	前期試験対策
2	病気の歴史			講義	
3	文化と病気			講義	
4	物理学的・化学的・生物的・社会的環境と疾病			講義	
5	検査値の見方と分布			講義・演習	
6	感染症とその予防			講義・演習	
7	メンタルヘルス(医療と保健)と福祉			講義・演習	
8	リハビリテーション			講義・グループワーク	
9	地域保健① -地域保健とは・地域医療・母子保健-			講義	後期試験対策
10	地域保健② -成人保健・高齢者保健・精神保健福祉-			講義	
11	地域保健③ -歯科保健・災害と健康-			講義	
12	学校保健① -学校保健の行政・保健教育と健康教育-			講義	
13	学校保健② -身体発育の特徴・学校保健と地域の連携-			講義・グループワーク	
14	産業保健			講義・演習	
15	障害者の医療・保健・福祉の基本			講義・演習	
使用テキスト	医療秘書講座 1 (メヂカルフレンド社)			評価方法	・前期・後期試験
・健康とは、疾病とは	・患者論と医の倫理			評価基準	・科目ごと前期・後期の相加平均の総得点で順位をつける ・無評定は順位外とする

令和3年度 専門学校静岡医療秘書学院シラバス

課程	専門課程	学科	医療秘書科	昼夜の別	昼	
専門科目	医療・保健・福祉基礎教科		医療秘書専門教科			
科目名	患者論と医の倫理		履修区分	1年次・通年		
担当者	講師：現役ドクター		実務経験のある教員による授業	有・無		
授業時間数	時間数／単位数／授業回数 30時間／2単位／15回		授業形態	講義・演習		
実務経験のある教員による授業内容	東京医科歯科大学医学部医学科卒業後、各大学病院勤務医や病院会会長などを経て、本学院へは平成22年より講師として。東京慈恵医科大学医学部卒業後、大学病院小児科勤務医を経て開業。平成16年より講師として各分野2名で授業を行っている。実際の医療現場での経験・体験を踏まえ、現在の医療に特化した授業展開を実施している。					
科目の目的	患者論では、医療機関で診察・治療を受けている病者を一般的に患者という。人は病気になると、医師をはじめとする医療従事者との間に関係が生じる。それらの要因などについて学ぶ。医の倫理では、主治医をはじめとする医療職者チームの役割、生まれ・老い・病み・人生の集大成を迎える人々の出会いについて、プロとして協働して支援していくことについて学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者論- 病気や医療の歴史や患者の心理・権利について理解する。 2. 患者論- 患者と医療関係者、セルフケアとメディカルケアについて理解する。 3. 医の倫理- 患者と癒しや医療倫理の必要性について理解する。 4. 医の倫理- 積極的安楽死・尊厳死、人生の完成段階の医療倫理について理解する。 					
授業回数	授業内容			授業方法	備考	
1	患者論	患者論とは、病気と医療の歴史		講義	前期試験対策	
2	患者論	患者の心理、患者の権利		講義		
3	医の倫理	医療倫理の必要性		講義		
4	医の倫理	いのちの始まり出生前診断の医療倫理		講義		
5	患者論	患者とその家族。ライフステージと患者像		講義・演習		
6	患者論	患者・医療者関係		講義・グループワーク		
7	医の倫理	生殖補助医療の医療倫理		講義・演習		
8	医の倫理	遺伝子検査の医療倫理		講義・グループワーク		
9	患者論	セルフケアとメディカルケア		講義		
10	患者論	治療・ケアの場の違いによる患者像		講義		
11	医の倫理	再生医療の倫理		講義		
12	医の倫理	脳死・臓器移植の医療倫理		講義		
13	医の倫理	積極的安楽死・尊厳死の医療倫理		講義・グループワーク		後期試験対策
14	患者論	終末期患者の治療とケア		講義・グループワーク		
15	医の倫理	人生の完成段階の医療倫理。災害時の医療倫理		講義・演習		
使用テキスト			評価方法	・前期・後期試験		
医療秘書講座 1 (メヂカルフレンド社)			評価基準	・科目ごと前期・後期の相加平均の総得点で順位をつける		
・健康とは、疾病とは			・患者論と医の倫理	・無評定は順位外とする		

令和3年度 専門学校静岡医療秘書学院シラバス

課程	専門課程	学科	医療秘書科	昼夜の別	昼
専門科目	医療・保健・福祉基礎教科		医療秘書専門教科		
科目名	からだの構造と機能		履修区分	1・2年次・通年	
担当者	講師：現役ドクター	実務経験のある教員による授業		有・無	
授業時間数	時間数／単位数／授業回数		授業形態	講義・演習	
	45時間／3単位／15回				
実務経験のある教員による授業内容	1年生担当は、昭和大学医学部卒業後、大学病院や企業勤務医を経て開業。本学院へは平成14年より講師として。2年生担当は、東京慈恵医科大学卒業後、大学病院勤務医を経て開業。平成30年より講師として各々授業を行っている。実際の医療現場での経験・体験を踏まえ、現在の医療に特化した授業展開を実施している。				
科目の目的	<p>ヒトの身体ができあがるまでに、36億年以上の歳月が過ぎているといわれている。ヒトは、他の脊椎動物からも飛躍的に発展して大きな脳を持つに至り、創造活動のできる唯一の生き物となった。ヒトの身体の構造と働き(機能)について、他の動物にも共通の生物体としての特徴と、他にはない人間独自の特徴があることを学ぶ。当たり前前に生活している自分の身体を眺め、どうしてこんな形になったのか、よくできていると感心するところがある。ヒトの身体の全身の構造やその働きに関連するシステムについて学ぶ。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全身の基本構造やヒトの生命活動を取り巻く環境との関係について理解する。 2. 生命活動を営むしくみ、呼吸や循環システム、体温調節などについて理解する。 3. 脳の働きや神経系、生殖や遺伝、発達と成長、老化について理解する。 				
授業回数	授業内容			授業方法	備考
1	全身の基本構造を概観する			講義	前期試験対策
2	身体の階層構造をみる			講義	
3	外界と取引しながら生命活動を維持する			講義・グループワーク	
4	流動する物質(体液、血液、リンパ液)			講義	
5	呼吸するしくみと生命活動			講義	
6	循環システム・体温			講義・演習	
7	食べて身体を構成し、エネルギーを生み出すしくみ			講義・演習	
8	老廃物を排出し身体の中を浄化するしくみ			講義・演習	
9	情報をキャッチする感覚器			講義	
10	考える・調節する -神経系のしくみ			講義・グループワーク	
11	移動する・動く			講義	
12	休息・睡眠をとる			講義	
13	再生・修復とは			講義・グループワーク	
14	生殖・遺伝とは			講義・演習	
15	発達と成長、老化とは			講義・演習	
使用テキスト	医療秘書講座 2 (メヂカルフレンド社)			評価方法	・前期・後期試験
・からだの構造と機能	・臨床検査と薬の知識			評価基準	・科目ごと前期・後期の相加平均の総得点で順位をつける ・無評定は順位外とする

令和3年度 専門学校静岡医療秘書学院シラバス

課程	専門課程	学科	医療秘書科	昼夜の別	昼
専門科目	医療・保健・福祉基礎教科		医療秘書専門教科		
科目名	臨床検査と薬の知識		履修区分	1・2年次・通年	
担当者	講師：現役ドクター		実務経験のある教員による授業	有・無	
授業時間数	時間数／単位数／授業回数		授業形態	講義・演習	
	45時間／3単位／15回				
実務経験のある教員による授業内容	東海大学医学部医学科を卒業後、大学病院勤務医や市立病院医長を経て開業。本学院へは平成11年より臨床検査の講師として。静岡県立静岡薬科大学卒業後、静岡県薬剤師会を退職後、平成28年より薬の知識の講師として各々授業を行っている。実際の医療現場での経験・体験を踏まえ、現在の医療に特化した授業展開を実施している。				
科目の目的	臨床検査では、血液検査や尿検査、超音波検査、内視鏡検査、CT検査、病理検査、遺伝子検査など様々な種類があり、様々な目的のため行われる。医師が患者の診断をする際、病気の原因や身体の障害を調べて診断し有効な治療法などを学ぶ。薬の知識では、治療薬の効果や副反応(副作用)について、病状を良好に管理するために症状や特徴について学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査の位置づけや目的について理解する。 2. 臨床検査の種類(検体検査・生体検査・画像検査・病理検査)について理解する。 3. 医薬品と健康食品の違いや西洋薬と漢方薬、ジェネリック医薬品について理解する。 4. 薬の特徴と作用(副作用)について理解する。 				
授業回数	授業内容			授業方法	備考
1	臨床検査の位置づけと目的・種類			講義	前期試験対策
2	医療用医薬品と一般用医薬品(OTC医薬品)との違い			講義	
3	臨床検査の実施時に考慮すべきポイント			講義	
4	西洋薬と漢方薬の違いと、ジェネリック医薬品とは何か			講義	
5	臨床検査の進め方と表し方、評価の基準			講義	
6	投与方法や服用時期			講義	
7	臨床検査の有用性の評価			講義・演習	
8	剤形の特徴と、薬が身体の中へどのように運ばれるか			講義・演習	
9	検査値に影響する因子と検査前の確認			講義	
10	薬の作用(効果や影響、副作用)、嗜好品の薬の影響(アルコールなど)			講義	
11	検査の体制と保険診療			講義	
12	投与する際に注意が必要な患者(高齢者・小児・妊婦など)			講義	
13	検体検査と生体検査			講義	
14	よく用いられる薬(心臓や血管、呼吸器、感染症など)			講義・演習	
15	画像検査と病理検査			講義・演習	
使用テキスト	医療秘書講座 2 (メヂカルフレンド社)			評価方法	・前期・後期試験
・からだの構造と機能	・臨床検査と薬の知識			評価基準	・科目ごと前期・後期の相加平均の総得点で順位をつける ・無評定は順位外とする

令和3年度 専門学校静岡医療秘書学院シラバス

課程	専門課程	学科	医療秘書科	昼夜の別	昼
専門科目	医療・保健・福祉基礎教科		医療秘書専門教科		
科目名	医療にかかわる用語		履修区分	1年次・通年	
担当者	講師：現役ドクター	実務経験のある教員による授業		有・無	
授業時間数	時間数／単位数／授業回数 45時間／3単位／15回	授業形態	講義・演習		
実務経験のある教員による授業内容	愛知医科大学医学部医学科を卒業後、大学病院など勤務医を経て開業。本学院へは平成7年より講師として授業を行っている。実際の医療現場での経験・体験を踏まえ、現在の医療に特化した授業展開を実施している。				
科目の目的	医療にかかわる用語では、診療に使われる基本用語や公衆衛生・保健・福祉・介護に使われる基本用語、身体の変現に使われる基本用語などを学ぶ。受診(病院・診療所で診察を受ける事)から判断された疾病(病気、外傷など)を行った結果は転帰として治癒、死亡、中止などに分類され、診療内容はすべて診療録(カルテ)に記載する事などについて学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診察過程と診療録、診察内容を表す用語を理解する。 2. 医療保険制度の用語や医療関連法律の用語を理解する。 3. 身体の一部を表す用語や解剖・整理の用語を理解する。 				
授業回数	授業内容		授業方法	備考	
1	診察過程と診療録の用語		講義		
2	診察内容を表す用語		講義		
3	全身の症状・診察、身体各部の症状・診察の用語		講義		
4	医療保険制度の用語		講義		
5	介護と介護保険制度の用語		講義・グループワーク		
6	医療職関連と医療機関関連法律の用語		講義	前期	
7	年金・社会福祉の用語		講義・演習	試験	
8	公衆衛生の用語		講義・演習	対策	
9	身体の一部を表す用語		講義		
10	体幹と四肢		講義		
11	身体の変向・断面を示す用語		講義		
12	身体の変作を示す用語		講義・グループワーク		
13	解剖の用語		講義	後期	
14	生理の用語		講義・演習	試験	
15	医療にかかわる用語一覧		講義・演習	対策	
使用テキスト	医療秘書講座 3 (メヂカルフレンド社)		評価方法	・前期・後期試験	
・医療にかかわる用語	・コミュニケーション論		評価基準	・科目ごと前期・後期の相加平均の総得点で順位をつける	
				・無評定は順位外とする	

令和3年度 専門学校静岡医療秘書学院シラバス

課程	専門課程	学科	医療秘書科	昼夜の別	昼	
専門科目	医療・保健・福祉基礎教科		医療秘書専門教科			
科目名	コミュニケーション論		履修区分	1年次・通年		
担当者	講師：カウンセラー		実務経験のある教員による授業	有・無		
授業時間数	時間数／単位数／授業回数 30時間／2単位／15回		授業形態	講義・演習		
実務経験のある教員による授業内容	早稲田大学教育学部教育学専修卒業後、日本カウンセリングアカデミー本科課程修了。高等学校や大学でカウンセラーとして勤務。本学院へは平成22年より講師として授業を行っている。長年の経験を活かし、授業展開を実施している。					
科目の目的	良好な家族関係や友人関係、順調に進んでいる仕事の現場では、コミュニケーションが適切に図られている。一方、仕事におけるトラブルやミスが多くは、コミュニケーション不足が原因である。したがって、我々が社会人として良い人間関係を築き、良い仕事をする為には、コミュニケーションのあり方を理解し、その力を身につける必要がある。ここでは、コミュニケーションが医療秘書の職務にどのような影響を与えるか、また、医療機関が、あなたのコミュニケーション能力を高めたいと考える理由や期待していることは何かについて学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの基本と重要性を理解する。 2. コミュニケーションが人間関係に与える影響について理解する。 3. 良好なコミュニケーションが人間関係に及ぼす効果を理解する。 					
授業回数	授業内容			授業方法	備考	
1	人間関係を豊かにするコミュニケーションとは			講義	前期 試験 対策	
2	コミュニケーションの基礎知識			講義		
3	より良い人間関係の構築に役立つ知識			講義・グループワーク		
4	基本的コミュニケーション技術の活用と人間関係			講義		
5	コミュニケーションに対する意識が人間関係に及ぼす影響			講義・グループワーク		
6	関係づくりを意識したコミュニケーションのあり方			講義		
7	医療機関の人間関係を良好にさせるコミュニケーション			講義・演習		
8	職場における効果的・効率的なコミュニケーション			講義・演習		
9	自己変容を促す内的コミュニケーション			講義		
10	傾聴による変容			講義・グループワーク		
11	自己覚知による変容			講義		
12	医療機関の良好なコミュニケーションが患者・家族に及ぼす影響			講義・グループワーク		
13	良好なコミュニケーションが職場や医療機関に及ぼす効果			講義		後期 試験 対策
14	コミュニケーション能力の向上を目指した日常生活のあり方			講義・グループワーク		
15	人間関係を良好にするために			講義・演習		
使用テキスト		医療秘書講座 3 (メヂカルフレンド社)	評価方法	・前期・後期試験		
・医療にかかわる用語		・コミュニケーション論	評価基準	・科目ごと前期・後期の相加平均の総得点で順位をつける ・無評定は順位外とする		

令和3年度 専門学校静岡医療秘書学院シラバス

課程	専門課程	学科	医療秘書科	昼夜の別	昼
専門科目	医療・保健・福祉基礎教科		医療秘書専門教科		
科目名	看護概説		履修区分	1・2年次・通年	
担当者	現役看護師		実務経験者による授業		有・無
授業時間数	時間数／単位数／授業回数		授業形態	講義・演習	
	30時間／2単位／15回				
実務経験者による授業内容	富山県立総合衛生学院衛生学院第1看護学科卒業後、大学病院、県内総合病院や看護学校講師等の勤務を経て、本学院へは令和2年から講師として授業を行っている。看護学校での指導経験を活かし、授業を展開している。				
科目の目的	看護を学ぶにあたり、医療を取り巻く変化に合わせて学べきことと、変換するなかにあつて変わらないもの、変わってはならないものを見極めることが必要であり、「看護とは何か」といった看護学の本質について考えるために、過去の歴史や現在の状況等を系統的に学び、看護に関する法律をもとに看護実践の方法までを具体的なエピソードも交えて行い、看護助手という職種に対応できる教育を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「看護とは何か」を考え、人間科学としての看護について理解する。 看護の役割と機能を海外・国内の歴史を通して考え、理解する。 法や倫理を尊重し、医療事故を防ぎ医療安全を図ることを意識しながら、看護実践の方法を理解する。 				
授業回数	授業内容			授業方法	備考
1	人間科学としての看護			講義	前期 試験 対策
2	看護とは何か(看護の目的)			講義	
3	看護の過去から現在まで			講義	
4	我が国の職業的看護の発展			講義	
5	看護実践における重要な概念			講義	
6	看護の役割と機能			講義	
7	看護実践の方法			講義・演習	
8	対人コミュニケーション			講義・グループワーク	
9	看護と法			講義	
10	臨床倫理			講義	
11	看護実践を支えるもの			講義	
12	専門職としての看護			講義	
13	医療事故と医療安全			講義	
14	事故対策			講義・グループワーク	
15	グローバル社会と看護			講義	
使用テキスト 基礎看護学 3 (メヂカルフレンド社) 看護学概論			評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期試験 ・科目ごと前期・後期の相加平均の総得点で順位をつける ・無評定は順位外とする 	

令和3年度 専門学校静岡医療秘書学院シラバス

課程	専門課程	学科	医療秘書科	昼夜の別	昼
専門科目	医療・保健・福祉基礎教科		医療秘書専門教科		
科目名	医療保険事務		履修区分	1年次・通年	
担当者	講師：現役医療事務職		実務経験のある教員による授業	有・無	
授業時間数	時間数／単位数／授業回数		授業形態	講義・演習	
	60時間／2単位／20回				
実務経験のある教員による授業内容	私立栄徳高等学校を卒業後、株式会社日本医療事務センター（現株式会社ソラスト）愛知支社業務社員として入職。医療事務職、医療事務管理指導職を経て、本学院へは平成30年度より医療保険事務の講師として、医療現場での経験・体験を踏まえ、授業を行っている。				
科目の目的	医療保険事務では、診療報酬明細書作成にあたりその根幹となる医療関係法規、医療機関の概要、医療保険のしくみ等の知識から初・再診、医学管理等、在宅医療、投薬、注射、処置、手術、検体検査、生体検査までの算定技術について、医療事務職および医師事務作業補助者としての基礎的な内容を学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 法規を含めた医療保障制度について理解する。 2. 初・再診、医学管理等、在宅医療、投薬について理解する。 3. 注射、処置について理解する。 4. 手術、検査について理解する。 				
授業回数	授業内容			授業方法	備考
1	医療機関の概要			講義	前期試験対策
2	医療関係法規			講義	
3	医療保険のしくみ			講義	
4	基本診療料(初・再診、外来診療料)			講義・演習	
5	医学管理等			講義・演習	
6	医学管理等			講義・演習	
7	在宅医療			講義・演習	
8	投薬			講義・演習	
9	投薬			講義・演習	
10	レセプト(診療報酬明細書)作成演習			講義・演習	
11	処置			講義・演習	
12	手術、麻酔			講義・演習	
13	手術、麻酔			講義・演習	
14	検体検査			講義・演習	
15	検体検査			講義・演習	
16	生体検査			講義・演習	
17	生体検査			講義・演習	
18	病理診断			講義・演習	
19	レセプト(診療報酬明細書)作成演習			講義・演習	
20	資格試験対策			講義・演習	
使用テキスト		医療事務講座 1～5 (ソラスト)		診療点数早見表	<p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期試験 <p>評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目ごと前期・後期の相加平均の総得点で順位をつける ・無評定は順位外とする

令和3年度 専門学校静岡医療秘書学院シラバス

課程	専門課程	学科	医療秘書科	昼夜の別	昼
専門科目	医療・保健・福祉基礎教科		医療秘書専門教科		
科目名	医療保険事務		履修区分	2年次・通年	
担当者	講師：元医療事務職		実務経験のある教員による授業		有・無
授業時間数	時間数／単位数／授業回数		授業形態	講義・演習	
	60時間／2単位／20回				
実務経験のある教員による授業内容	静岡県立浜名高等学校卒業後、一般病院事務職、株式会社メディコムソリューション、他校非常勤講師等を経て、令和2年度より医療保険事務の講師として医療現場での経験・体験を踏まえ、医療保険点数の算定について、基礎的事項の反復練習を中心として、授業を行っている。				
科目の目的	医療保険事務では、一年次で学習した内容に引き続き、リハビリテーション、精神科専門療法、画像診断、麻酔、放射線治療、病理診断等の算定技術について、医療事務職としてだけでなく、医師事務作業補助者としての能力向上も視野に学ぶ。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーション、精神科専門療法について理解する。 2. 画像診断について理解する。 3. 麻酔、放射線治療、病理について理解する。 4. 入院について理解する。 				
授業回数	授業内容			授業方法	備考
1	1年次の復習			講義・演習	前期 試験 対策
2	リハビリテーション			講義・演習	
3	精神科専門療法			講義・演習	
4	麻酔			講義・演習	
5	画像診断			講義・演習	
6	画像診断			講義・演習	
7	放射線治療			講義・演習	
8	病理診断			講義・演習	
9	レセプト(診療報酬明細書)作成演習			講義・演習	
10	試験対策			講義・演習	
11	入院基本料			講義・演習	
12	入院基本料			講義・演習	
13	入院基本料			講義・演習	
14	入院基本料等加算			講義・演習	
15	入院基本料等加算			講義・演習	
16	特定入院料			講義・演習	
17	特定入院料			講義・演習	
18	療養担当規則			講義・演習	
19	レセプト(診療報酬明細書)作成演習			講義・演習	
20	試験対策			講義・演習	
使用テキスト		医療事務講座 1～5 (ソラスト)		診療点数早見表	<p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期試験 <p>評価基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目ごと前期・後期の相加平均の総得点で順位をつける ・無評定は順位外とする